

名局は高め合う2人がいて生まれる

将棋界に18歳の天才棋士がいます。ニュースなどでご存知と思いますが、藤井聡太2冠（王位・棋聖）です。将棋についてはあまり知らなくても、羽生善治9段のお名前は聞いたことがあるのではないのでしょうか。

羽生さんが初めてタイトル（竜王）を獲得したのが19歳でした。その後、約35年間将棋界の先頭を走ってこられました。その羽生さんが藤井2冠の15歳プロデビュー時に「すごい人が出てきた。」と感想を述べていました。それから約4年を過ぎた現在、藤井さんは将棋界に全部で8つあるタイトルのうち、2つを獲得したのです。

この数年でAI（人工知能）にプロの棋士（囲碁・将棋・チェスなど）が太刀打ちできなくなると言われています。そのAIの考えの上を行くとも言われる藤井2冠ですが、残念ながら彼一人では後世に語り継がれるような素晴らしい棋譜（対局の記録）を残すことはできません。

なぜかと言うと、将棋は2人で指すものだからです。切磋琢磨ということばがあります。将棋に限らず、勉強でもスポーツでもお互いに戦う相手を尊敬し、その相手の上を行くために一生懸命に練習・勉強・稽古する。勝ちと負けを繰り返し、そのたびに一層の努力を重ね、お互いに成長していくという意味です。

つまり、藤井さんがどんなに強くても対局者（相手）も同じように強くないと、今のこの時代の名局を後世に残せないのです。

ところで、本年度のPTA活動が2学期より少しずつ始まっています。

「お手伝いします！ ちょこっとボランティアPTA（ちょこボラ）」は、これから数年間のPTA活動の背骨をつくる可能性を表したキャッチコピーです。それは、

「PTA活動はどなたかにお任せしたい」という気持ちから、

子どもたちのために自分に出来ることをやってみよう！

という気持ちへのコペルニクスの転回をめざしているからです。

「学校に、誰かに、ではなく、学校と一緒に、自分も」へ。

名局はお互いを高め合う2人がいてこそ生まれます。新しい生活様式のもとで、保護者のみなさんと共にこれからのPTA活動つくっていきます。みなさんの「ちょこボラ」への登録をよろしくお願ひします。

（学校だより 9月号から）